



もてなしのしつらえ

～白馬村色彩指針(カラーシステム)～

HAKUBA SCENERY COLOR



もてなしのしつらえ

～白馬村色彩指針(カラーシステム)～

HAKUBA SCENERY COLOR

1 手引きの使い方

白馬村では令和4(2022)年に景観法に基づく白馬村景観計画を策定し、届出制度を開始しました。

白馬村景観計画は、村民、事業者、行政が一体となって、本村の目指す景観の目標像を総合的かつ計画的に実現していくための景観づくりの方針やルールなどを体系的に示すものです。

景観の目標像を実現するためには、個々の建築物や敷地を単体としてとらえるのではなく、背景となる山岳景観や周辺地域の景観特性などを踏まえ、これから計画しようとする行為が、村にとってよりふさわしい計画・デザインとなるよう、良好な景観づくりに向けた工夫や配慮が不可欠です。

本手引きは、良好な景観づくりの一助となることを期待し、白馬村景観計画の「景観づくりの基準」、その中でも色彩の考え方や基準についてイラストを用いて解説しています。

また、景観条例に基づく届出を要しない場合でも、白馬村の美しい景観の創出に向けた取組みの参考にしていただくことを目的とし、末尾では、色彩以外の「景観づくりの解説」を掲載しています。

景観計画

景観づくりの方針



景観計画概要版ガイドライン

届出対象行為 届出手続きの流れ 景観づくりの基準



白馬村色彩指針の手引き + 景観づくりの解説

景観づくりの基準の解説と事例 色彩システム



2 白馬の景観づくりに向けた基本的考え方

2-1 基本理念

「みんなで守り・育み・活かす かけがえのない白馬の景観」



2-2 色彩指針(カラーシステム)の位置づけ

現在の景観は、さまざまな素材と共に、さまざまな人工色彩に溢れています。景観を形成する要素となる色彩は、美しいまちづくりを進める上できわめて重要な要素です。

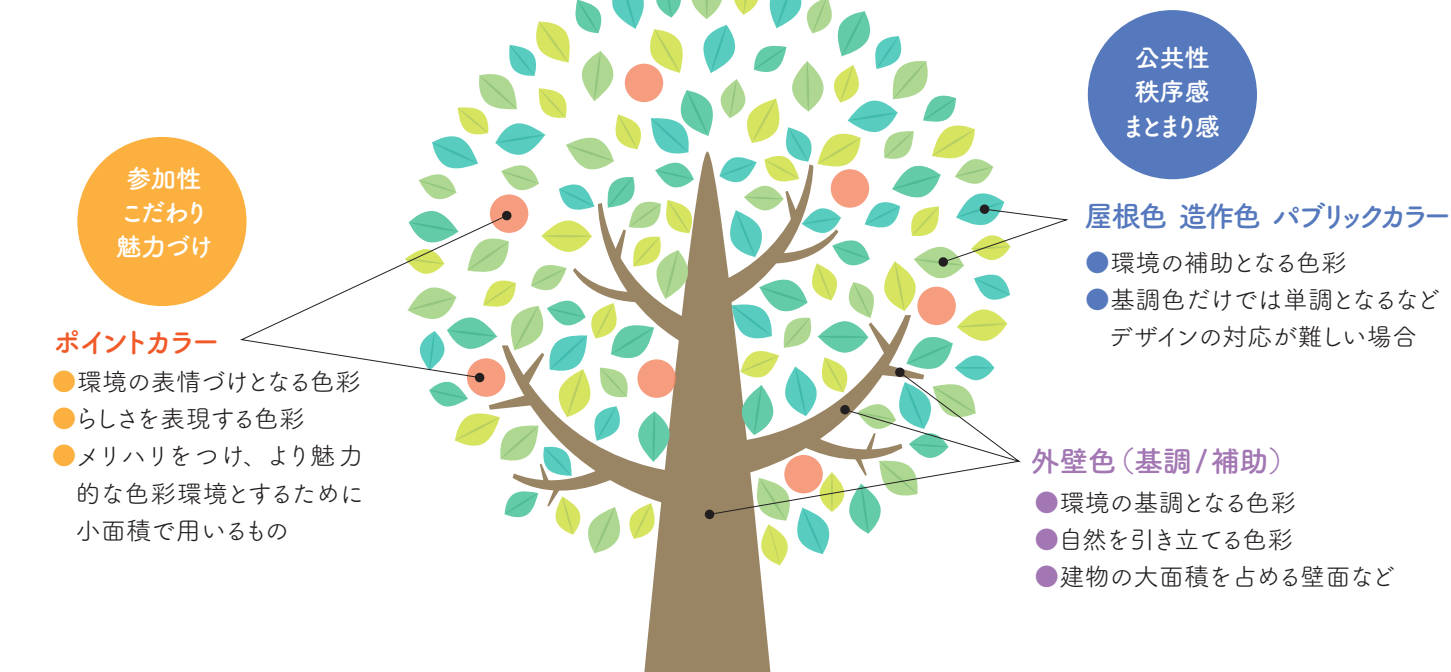
しかし、色彩感覚は個人差が大きく主観的になりやすいものです。これを客観的に捉えていただくために、平成11年に作成したのが『白马村まちづくり環境色彩計画～もてなしのしつらえ～』でした。

約25年間この計画に沿ってご協力いただきました。この手引きは、このたびの景観法に基づく景観計画策定による景観基準の見直しとともに、特に難しい色彩の基準にも一部見直しをかけ、改めて色彩指針(カラーシステム)として明示するものです。

3 白馬景観づくりの解説

3-1 白馬らしい色彩景観をつくるために

(1) 白馬村カラーシステムの概念



施設 名称	建物			ポイントカラー	ストリートファニチャー類 パブリックカラー
	外壁色	屋根色	造作色		
部位	外壁		窓枠 梁 扉 手摺など	花 サインのワンポイント カラー フラッグ のれんなど	街路灯 屋外広告物架台 ベンチ 屑入れなど
	基調	補助			
	・建物の広い面積を占め、全体の基調となる部位(全体の2/1以上)	・壁として認識でき基調色に次いで広い面積を占める部位(全体の2/1以下)	・建物の屋根として認識できる部位	・建物のうち小さな面積で、ワンポイント的に利用できる部位	・公共空間に、また公共のために設置される施設・案内標識などのポール、フレーム等架台となる部分

(2) 白馬村の色彩景観の特徴

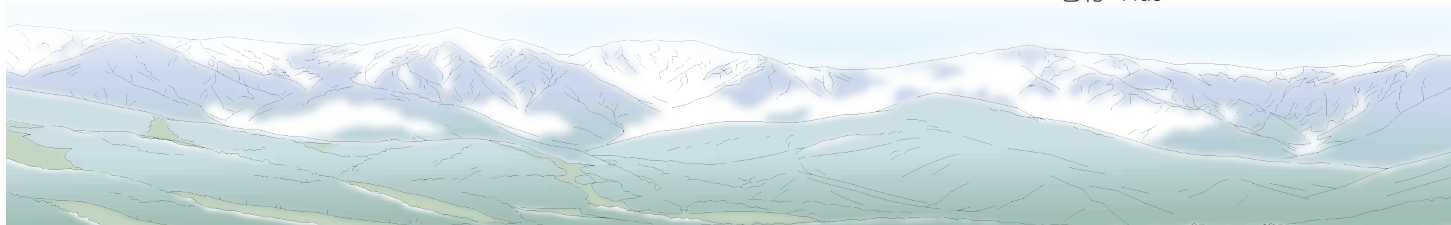
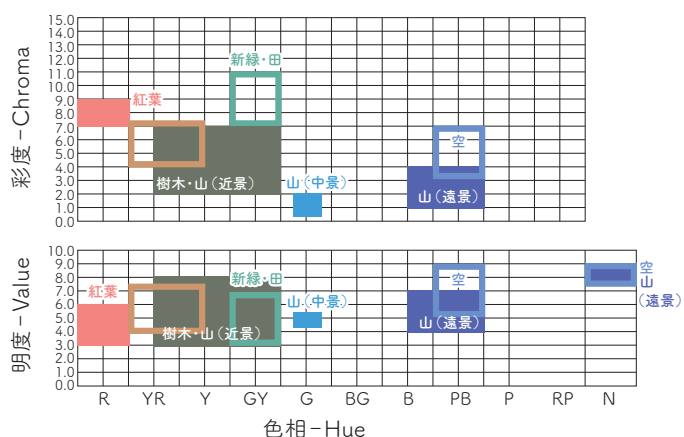
色彩特性の把握

■自然色～グランドカラー

白馬村の色彩景観の特徴としてまずあげられるのは、北アルプスを中心とした山々の青い岩肌と冠雪の白、そして山麓の美しい緑や秋の紅葉、よく手入れのされた田園風景などの自然色でしょう。

樹木の色彩は、それを見る距離や季節により大きく変化して見えます。

白馬の自然色のあざやかさ(彩度)は、新緑及び紅葉の葉の色彩を除いては、比較的落ちついた色彩であることがわかります。さらに中景、遠景と距離をおくに従い、より穏やかな色彩に見え、色味(色相)も大気をはさむので青みに寄って見えます。

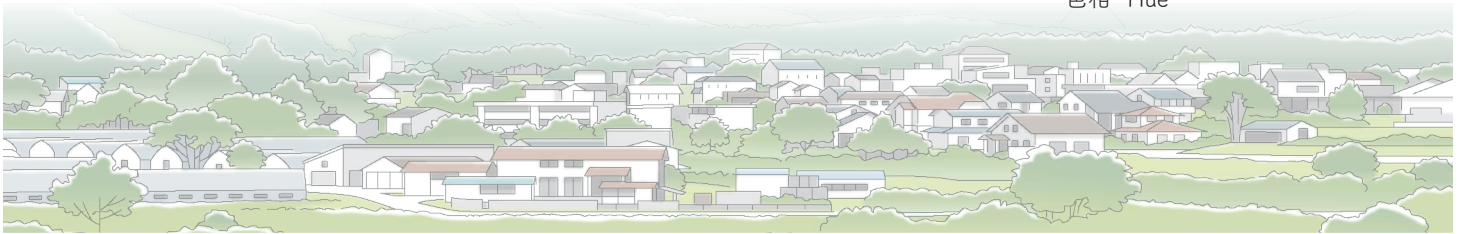
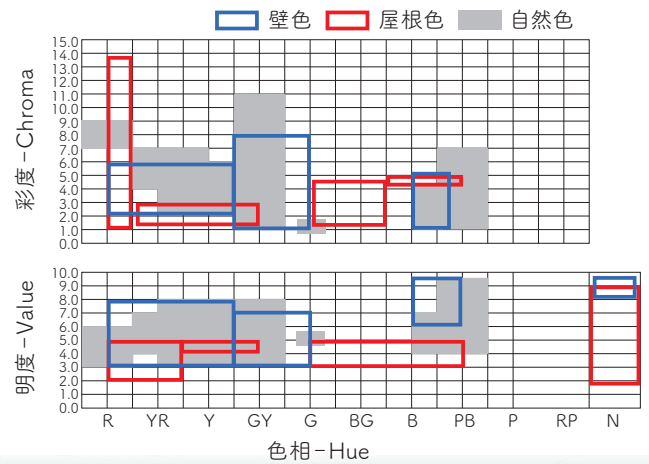


■人工色～ベースカラー

白馬村の色彩景観の特徴として自然色の次にあげられるのは、商業施設を中心とした色とりどりの建築物の色彩でしょう。

白馬村の建築物は、形態的な視点からみても、多様な建築様式で構成され、さらに色彩がさまざまであることにより、ややまとまり感のない景観の印象を創っています。

白馬村の建築物の色彩を自然色に重ね、あざやかさ（彩度）に着目してみると、屋根色や壁色が自然色のあざやかさと同等もしくはそれ以上であることがわかります。人工色は、自然色のように細かな影や色斑がないため、強くあざやかさが強調して見えます。大きな面積では、自然色より穏やかな色彩とすることが景観調和の基本条件となります。



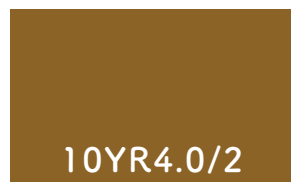
(3) 色彩のもののさし

白馬村の景観づくりの基準では、発注者や設計者、施工者などが色彩を正確に表すための尺度としてマンセル値を使用します。マンセル値とは、マンセル表色系によって決まる色の値で、色の表示方法として一般に広く利用されており、日本では、JISZ8721として規格化されています。マンセル表色系では、一つの色彩を「色相」「明度」「彩度」の3つの属性の組み合わせによって表現しています。

色 相	明 度	彩 度
色相は赤や青や黄といった色味のことで、色味を赤(R)、黄(Y)、緑(G)、青(B)、紫(P)とその中間の黄赤(YR)、黄緑(GY)、青緑(BG)、青紫(PB)、赤紫(RP)に分け、さらに10段階に区切ったものを表示方法として用います。	黒を0、白を10として明るさの度合いを表し、色相には関係なく表します。明るい色彩ほど数値が大きくなります。色味を持たない無彩色は「N(ニュートラルの意)」を用い「N5」のように明るさの数値のみを組み合わせで表現します。	あざやかさを0から14程度までの数値で表します。あざやかさの度合いを表します。白や黒、グレーなどの色味がない色(無彩色)を0とし、色があざやかになるにつれて数値が高くなります。

■マンセル値の表わし方

三属性を併せて「色相 明度/彩度」と表記します。(無彩色は「N明度」と記す場合もあります。)



(じゅうワイアルよんのに)

10YR 4.0/2

色 相 明 度 彩 度

(4) 白馬村カラーシステムの考え方

① 色彩景觀のコンセプト

■検討課題の構造

目指すリゾートと
安らぎの生活空間

景觀形成

色彩基準

- ・国際的観光地としての個性と風格の醸成
- ・「もてなす心くばり」がもとめられる時代
- ・オトナになる白馬（成熟、風格、寛容）
- ・体験、感動する物語づくり
- ・豊かな自然環境を守り、活かす
- ・持続可能な住みよい環境
- ・景觀育成と生活の融和
- ・残された自然、あるがままの自然
- ・多様さを抱えもつカオスの景觀
- ・全体のまとまりと個性の発揮
- ・おおきな「地」と個性ある「図」
- ・一枚岩ではない、自立的なエリアカラー
- ・大きな地の色、小さな地の色

■色彩景觀のコンセプト

もてなしのしつらえ
景觀でもてなす

■「もてなしのしつらえ」のしくみ

グランドカラー

豊かな自然をまもる

白馬の象徴であり、原風景ともいえる大自然（山、緑、空、川等）が白馬村のグランドカラーです。色彩景觀という視点からも、この美しい自然に敬意をはらい、保護保全に努めます。



ベースカラー

グランドカラーを引き立て、 建物の色彩を整える

建物の屋根色及び外壁色を主とした人工色が、白马村のベースカラーです。ベースカラーは、自然色より穏やかな色彩により、グランドカラーを積極的に引き立て、調和させていきます。



アクセントカラー

個性を表現し楽しむ景觀を造る

建物の外観の一部にベースカラーとは異なった色を使用するのがアクセントカラーです。グランドカラーを基調とし、その上に統一されたベースカラーを施すことによって統一された心地よい景觀を作り出しつつ、建物に個性を表現し、街並み全体を整えます。



■カラーシステムのコンセプト

景觀と色彩でしつらえる
もてなしのオールシーズン理想都^{リゾート}

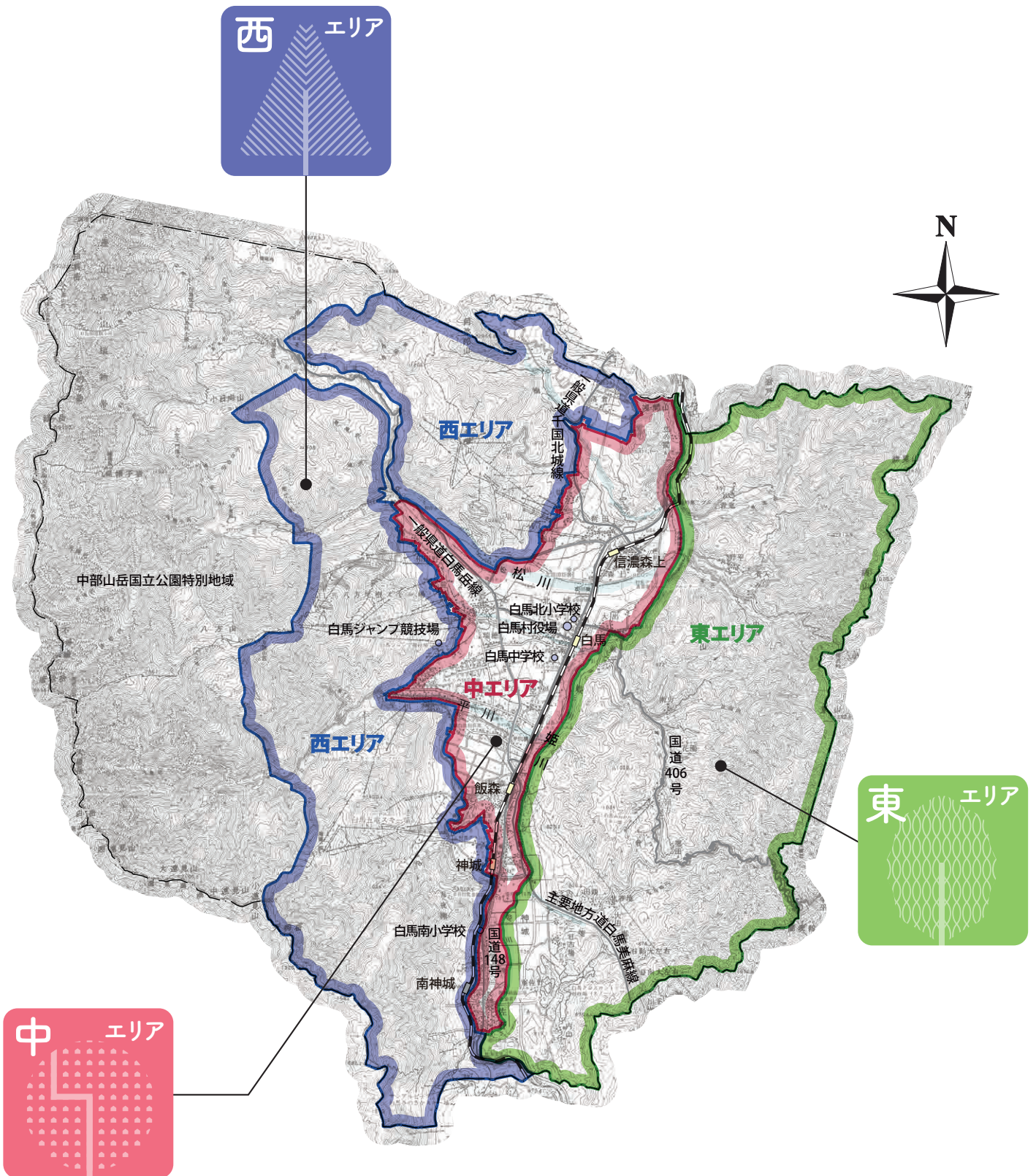
■カラーシステムを通じての未来の姿

外国人観光客が多く訪れるようになった白馬村。国連世界観光機関のベストツーリズムビレッジにも選定され、美しい山岳景觀や雪質は、国際的に認知され始めていますが、いまだ真にリゾートと呼べる街並みとはなっていません。

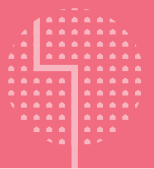
天啓の山岳景觀（遠景）を背景に、中景・近景を磨き上げたなら、「持続可能なオールシーズンマウンテンリゾート」と称するに相応しい観光地になり得るポテンシャルは秘めています。その磨き上げの一つが、過去25年間『もてなしのしつらえ』で示された色彩指針でした。長い年月をかけてこそようやく変化を感じられるのが、景觀育成によるまちづくりです。

このコンセプトを、更なる将来に向かっての共通認識として共有し、訪れる観光客を景觀でもてなし、日々この村に暮らす住民もまた景觀から安らぎを感じることができる、真の理想都（リゾート）となって行くために努めていきます。

② 色彩エリア



③ 色彩方針と配色イメージ

 西 エ リ ア	3つの視点からみた特徴 <table><tr><td>建物相互間の密度</td><td>低</td></tr><tr><td>建物相互間の樹木の量</td><td>多</td></tr><tr><td>景観の中心的イメージ</td><td>洋</td></tr></table>	建物相互間の密度	低	建物相互間の樹木の量	多	景観の中心的イメージ	洋	エリアの方向性 自然の中に趣をもったたずむ、洗練された格調が感じられる景観づくり 西エリアらしさ AREA IMAGE 洗練	エリアイメージから連想される配色例  環境色彩としての配色例 
建物相互間の密度	低								
建物相互間の樹木の量	多								
景観の中心的イメージ	洋								
 中 エ リ ア	3つの視点からみた特徴 <table><tr><td>建物相互間の密度</td><td>標準～高</td></tr><tr><td>建物相互間の樹木の量</td><td>標準</td></tr><tr><td>景観の中心的イメージ</td><td>和/洋</td></tr></table>	建物相互間の密度	標準～高	建物相互間の樹木の量	標準	景観の中心的イメージ	和/洋	エリアの方向性 賑わいを演出しながらも、落ち着きと統一感の感じられる景観づくり 中エリアらしさ AREA IMAGE 遊創	エリアイメージから連想される配色例  環境色彩としての配色例 
建物相互間の密度	標準～高								
建物相互間の樹木の量	標準								
景観の中心的イメージ	和/洋								
 東 エ リ ア	3つの視点からみた特徴 <table><tr><td>建物相互間の密度</td><td>標準</td></tr><tr><td>建物相互間の樹木の量</td><td>少</td></tr><tr><td>景観の中心的イメージ</td><td>和</td></tr></table>	建物相互間の密度	標準	建物相互間の樹木の量	少	景観の中心的イメージ	和	エリアの方向性 白馬村の原風景ともいえる昔ながらの伝統や、和風情緒のある素朴さを積極的に守る景観づくり 東エリアらしさ AREA IMAGE 情緒	エリアイメージから連想される配色例  環境色彩としての配色例 
建物相互間の密度	標準								
建物相互間の樹木の量	少								
景観の中心的イメージ	和								

3つの景観要素から導き出される配慮事項（解説）

1. 建物相互間の密度が「高い場合」は、「低い場合」に比べて、隣接する建物との関連性が強くなるため、街並みの調和に十分配慮する必要があります。
2. 建物相互間の樹木の量が「少ない場合」は、「多い場合」に比べて、建物の色彩が全面に見えてくるため、穏やかな色彩にする必要があります。

色 使 い

- ・自然環境と調和し、洗練された格調と落ち着きの感じられるような色使いとします。
- ・太陽光発電施設を屋根や屋上壁面等に設置する場合は、周囲の色使いになじませます。

色 数

- ・使用する色数を少なくします。

照 明

- ・自然環境と調和するよう建物周りの照明は設置場所に配慮しながら、温かみのある光源を用います。

ホテル、ペンション、別荘など、比較的新しく開発された宿泊施設を中心としたエリア



色 使 い

- ・自然環境と調和し、落ち着きと統一感の感じられるような色使いとします。
- ・自然環境と調和し、洗練された格調と落ち着きの感じられるような色使いとします。
- ・太陽光発電施設を屋根や屋上壁面等に設置する場合は、周囲の色使いになじませます。

色 数

- ・賑わいを演出するアクセントとなる色彩は、色彩相互の調和、使用する量に配慮します。

照 明

- ・店先、店内を演出するよう、照明は温かみのある光源を用います。

白馬駅やオリンピック施設などランドマークを多く含む村の中心部。宿泊施設も数多く、住宅に加え、さまざまな建物が混在したエリア



色 使 い

- ・伝統的な生活感や自然環境に調和した色使いとします。
- ・太陽光発電施設を屋根や屋上壁面等に設置する場合は、周囲の色使いになじませます。

色 数

- ・使用する色数を少なくします。

照 明

- ・周辺の環境に留意し、過度なものとならないよう配慮します。

農家や旧家、民宿などの多い、白馬の原風景ともいえる、古くから生活のあったエリア



3. 景観の中心的イメージが「和風の場合」は、和の建築素材である、土壁・漆喰（ベージュ系・白）や和瓦・茅葺き（グレイ系・茶系）の色彩を逸脱すると違和感を生じます。

「洋風の場合」は、西洋の建築素材には幅があるため、他の色味でも違和感は少ないが、明るさ・あざやかさに配慮する必要があるががあります。

「和洋混在の場合」は、複雑な景観イメージになりやすいことから、慣用色であるベージュ系を中心に、景観のまとまりに配慮することが重要です。

(5) 色彩エリア別カラーシステム



① 西エリアにふさわしい色彩

AREA CONCEPT

自然の中に趣をもってたたずむ、
洗練された格調が感じられる景観づくり

AREA IMAGE

洗 練

■指定色彩(数値基準)

名称	外壁色		屋根色		造作色	
部位	外壁		屋根		窓枠／梁／手摺／扉など	
色相	全色相	無色彩	全色相	無色彩	全色相	無色彩
明度	9～3	9～3	5以下	5以下	6～2	8以上3以下
彩度	3以下	—	3以下	—	2～8	—

※自然素材を使用する場合は素地色を用いることができるが、防腐材等を使用する場合は色彩数値基準による。

■解説(色彩の使い方)

西エリアは樹木の量が多く、密度も比較的ゆったりとした洋風建築が中心であることから、外壁・屋根とも色相(色味)の幅を広げた自由度のある質の高い景観づくりを目指します。

外 壁 色

明るさは低～高明度、あざやかさは低彩度の穏やかな色調とします。
色味は全色相より自由を選ぶことができます。

屋 根 色

明るさは低～中明度、あざやかさは低彩度の落ちついた色調とします。
色味は全色相より自由を選ぶことができます。

造 作 色

明るさは低～中明度、あざやかさは中～低彩度で外壁色のアクセントとなる色調とします。無彩色の場合は中程度の明度は使用できません。
色味は全色相より自由を選ぶことができます。

軒 裏

軒裏は、造作色の無彩色を基本とします。自然素材を使用する場合やそれに準じる場合は素地色を基本とします。

アクセントカラー

アクセントカラーは、色相、明度、彩度ともに自由を選ぶことができますが、外壁の色彩と調和を図りつつ、外壁の見付け面積の10%以内を目安とします。(彩度15以上、及び蛍光色の使用はできません。)

柵・フェンス・塀等

柵・フェンス・塀等は、自然素材の使用に努め素地色を基本としますが、劣化防止に努めることとします。工業製品等を使用する場合は、色彩は黄赤系、黄系、無彩色系を基本とします。

基 礎 等

建物の基礎等は外壁の一部ですが着色等が難しい部位です。一般的なコンクリート、モルタル等の素地色を基本とします。

色彩一覧表 (西エリアカラーパレット)

凡 例

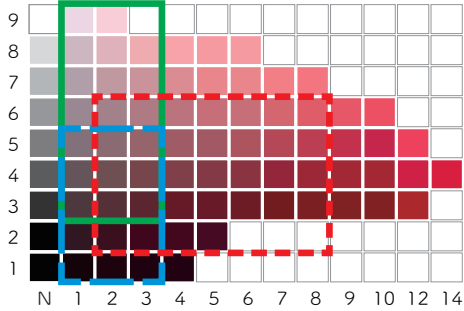
使用できる色彩範囲

外壁色

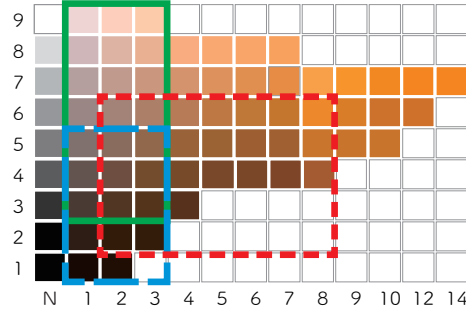
屋根色

造作色

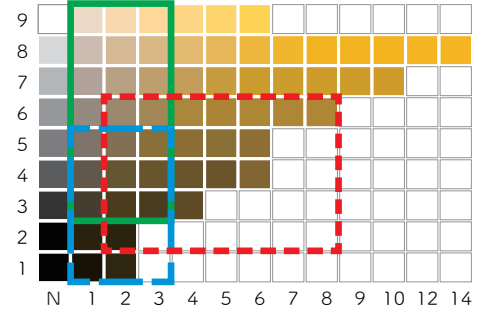
R(赤)系



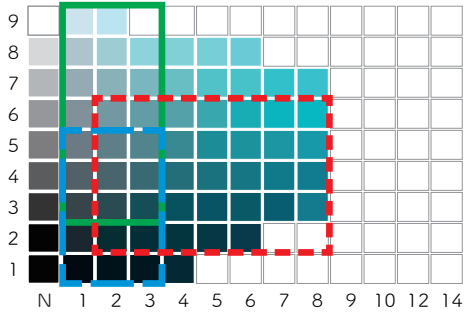
YR(黄赤)系



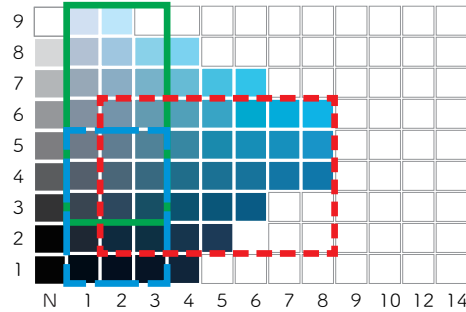
Y(黄)系



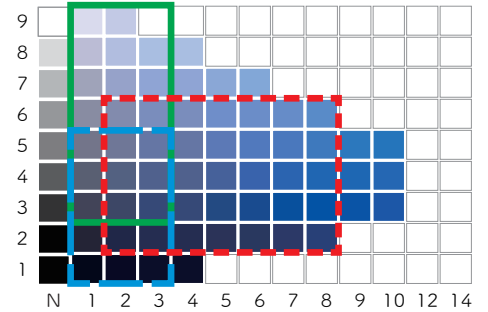
BG(青緑)系



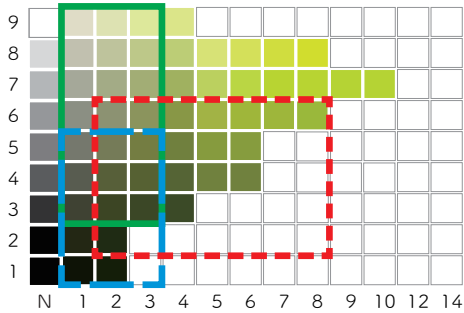
B(青)系



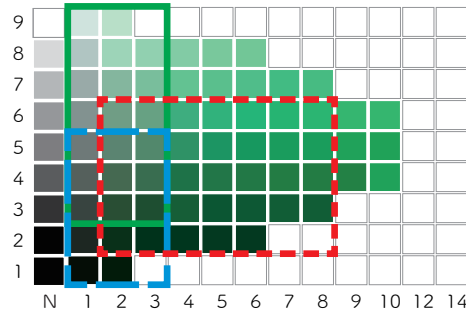
PB(青紫)系



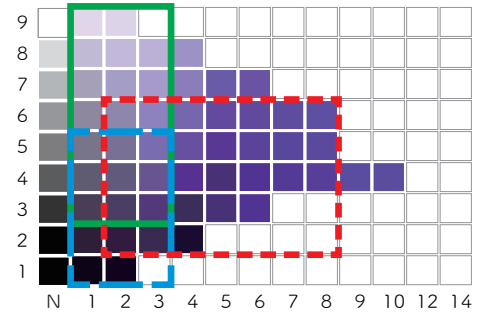
GY(黄緑)系



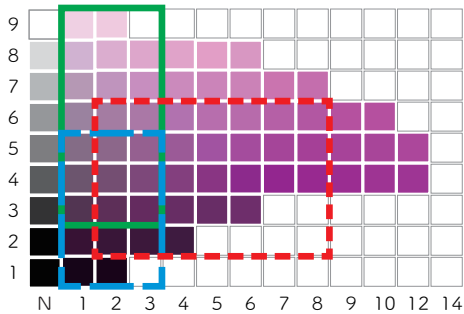
G(緑)系



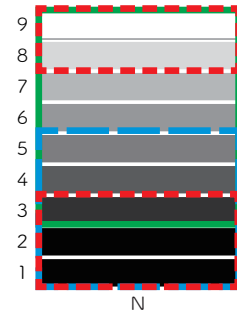
P(紫)系



RP(赤紫)系



N(無彩色)系



※色彩一覧表は印刷のため実際のマンセル値とは異なります。実際の色を確認する場合は、マンセルカラー表色系の色見本を参照してください。

② 中エリアにふさわしい色彩

AREA CONCEPT

賑わいを演出しながらも、
落ち着きと統一感の感じられる景観づくり

AREA IMAGE

遊 創

■指定色彩(数値基準)

名称	外壁色		屋根色		造作色	
部位	外壁		屋根		窓枠／梁／手摺／扉など	
色相	R,YR,Y系	無色彩	R,YR,Y系	無色彩	R,YR系	無色彩
明度	9～3	9～3	5以下	5以下	6～2	8以上3以下
彩度	3以下	—	3以下	—	2～8	—

※自然素材を使用する場合は素地色を用いることができるが、防腐材等を使用する場合は色彩数値基準による。

■解説(色彩の使い方)

中エリアは、建築相互間の密度が高く樹木の量も比較的少ない。また和洋混在のエリアであり、複雑な景観イメージになりやすい。これらのことから、建物の色彩指針は積極的に落ち着き統一性の感じられる景観づくりを目指したものとします。

外 壁 色

明るさは中～高明度、あざやかさは低彩度の穏やかな色調とします。
色味は赤系・黄赤系・黄系・無色彩系より選ぶことができます。

屋 根 色

明るさは低～中明度、あざやかさは低彩度の落ちついた色調とします。
色味は赤系・黄赤系・黄系・無色彩系より選ぶことができます。

造 作 色

明るさは低～中明度、あざやかさは低～中彩度で外壁色のアクセントとなる色調とします。無色彩の場合は中程度の明度は使用できません。
色味は赤系、黄赤系、無色彩より選ぶことができます。

軒 裏

軒裏は、造作色の無色彩を基本とします。自然素材を使用する場合やそれに準じる場合は素地色を基本とします。

アクセントカラー

アクセントカラーは、色相、明度、彩度ともに自由に選ぶことができますが、外壁の色彩と調和を図りつつ、外壁の見付け面積の10%以内を目安とします。(彩度15以上、及び蛍光色の使用はできません。)

柵・フェンス・塀等

柵・フェンス・塀等は、自然素材の使用に努め素地色を基本としますが、劣化防止に努めることとします。工業製品等を使用する場合は、色彩は黄赤系、黄系、無色彩系を基本とします。

基 礎 等

建物の基礎等は外壁の一部ですが着色等が難しい部位です。一般的なコンクリート、モルタル等の素地色を基本とします。

色彩一覧表 (中エリアカラーパレット)

凡 例

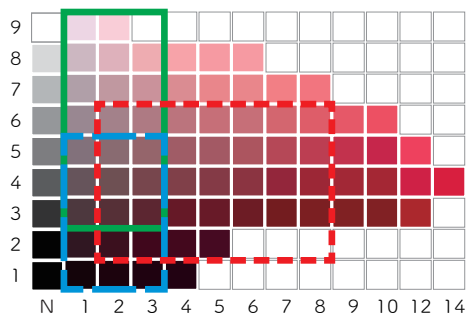
使用できる色彩範囲

外壁色

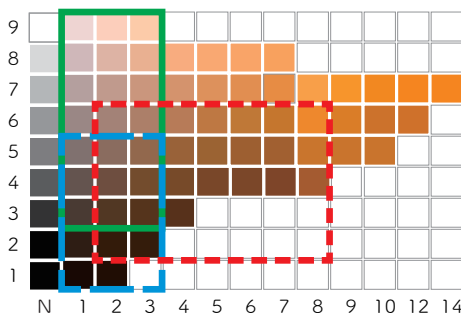
屋根色

造作色

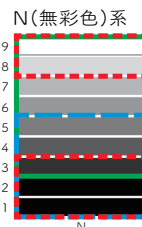
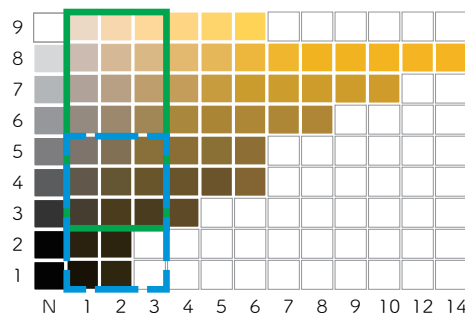
R(赤)系



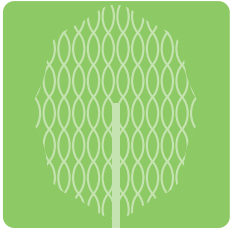
YR(黄赤)系



Y(黄)系



※色彩一覧表は印刷のため実際のマンセル値とは異なります。実際の色を確認する場合は、マンセルカラー表色系の色見本を参照してください。



③ 東エリアにふさわしい色彩

AREA CONCEPT

白馬村の原風景ともいえる昔ながらの伝統や、
和風情緒のある素朴さを積極的に守る景観づくり

AREA IMAGE

情緒

■指定色彩(数値基準)

名称	外壁色		屋根色		造作色	
部位	外壁		屋根		窓枠／梁／手摺／扉など	
色相	YR,Y系	無色彩	YR,Y系	無色彩	R,YR,Y系	無色彩
明度	9～3	9～3	5以下	5以下	4以下	8以上3以下
彩度	3以下	—	3以下	—	2以下	—

※自然素材を使用する場合は素地色を用いることができるが、防腐材等を使用する場合は色彩数値基準による。

■解説(色彩の使い方)

東エリアは、建築相互間の密度は標準であるが、建物間の樹木の量が少ないことから、色彩がほかに与える影響が大きい。また和風の景観イメージが中心となっていることも大きな特徴のエリアである。白馬の伝統的なエリアとして、素朴な和風情緒を積極的に守り、創造します。

和の伝統的な建築素材である瓦・茅葺き・土壁・漆喰にみられる色彩の範囲を生かした色彩指針としつつ、明度の低い色も用いることができます。

外 壁 色

明るさは低～高明度、あざやかさは低彩度の穏やかな色調とします。
色味は黄赤系・黄系・無彩色系より選ぶことができます。

屋 根 色

明るさは低～中明度、あざやかさは低彩度の落ちついた色調とします。
色味は黄赤系・黄系・無彩色系より選ぶことができます。
穏やかな暖色系の色味をもった色彩を中心とします。

造 作 色

明るさは低明度、あざやかさは低彩度で外壁色のアクセントとなる色調とします。無彩色の場合は中程度の明度は使用できません。
色味は赤系、黄赤系、黄系、無彩色より選ぶことができます。

軒 裏

軒裏は、造作色の無彩色を基本とします。自然素材を使用する場合やそれに準じる場合は素地色を基本とします。

アクセントカラー

アクセントカラーは、色相、明度、彩度ともに自由に選ぶことができますが、外壁の色彩と調和を図りつつ、外壁の見付け面積の10%以内を目安とします。(彩度15以上、及び蛍光色の使用はできません。)

柵・フェンス・塀等

柵・フェンス・塀等は、自然素材の使用に努め素地色を基本としますが、劣化防止に努めることとします。工業製品等を使用する場合は、色彩は黄赤系、黄系、無彩色系を基本とします。

基 礎 等

建物の基礎等は外壁の一部ですが着色等が難しい部位です。一般的なコンクリート、モルタル等の素地色を基本とします。

色彩一覧表 (東エリアカラーパレット)

凡 例

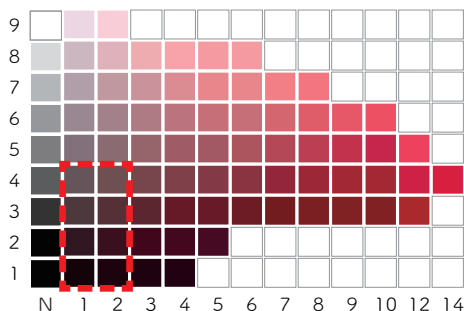
使用できる色彩範囲

外壁色

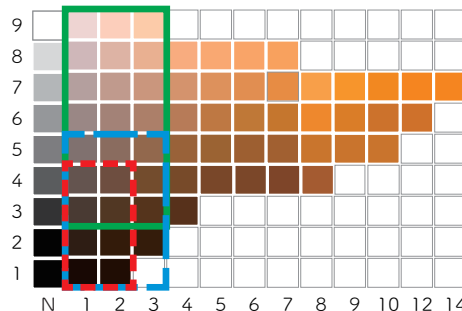
屋根色

造作色

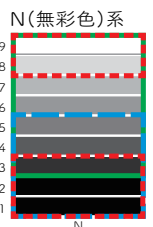
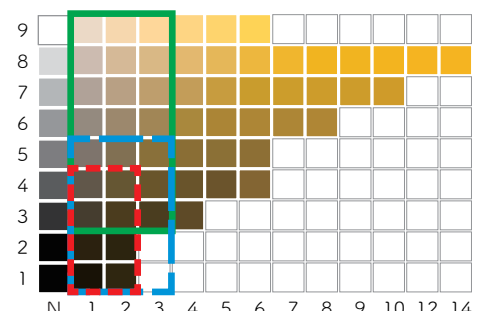
R(赤)系



YR(黄赤)系



Y(黄)系



※色彩一覧表は印刷のため実際のマンセル値とは異なります。実際の色を確認する場合は、マンセルカラー表色系の色見本を参照してください。

(6) 色彩選定の手順

STEP-1 エリアの確認

施設の所在地より、エリア(西・中・東)と、その指定色彩を確認します

※建物の新築だけではなく、20㎡以上の外壁や屋根の塗り替えにおいても「白馬村景観条例による届出」が必要です。

STEP-2

外壁色の選定

塗装等による場合

エリア指定色彩より、外壁色の色相・明度・彩度を
確認し、色見本帳などを参考にして色彩を選定します。
2色以上を組み合わせる場合も、それぞれの色彩が
指定色彩に合致しているよう選定します。

メーカーの仕上材から選ぶ場合

エリア指定色彩より、外壁色の色相・明度・彩度を
確認し、仕上材のサンプル帳から色彩範囲に合致し
た希望するものを選定します。
2色以上を組み合わせる場合も、それぞれの色彩が
指定色彩に合致しているよう選定します。

STEP-3

屋根色の選定

塗装等による場合

エリア指定色彩より、屋根色の色相・明度・彩度を
確認し、色見本帳などを参考にして色彩を選定します。
屋根の色彩は、1色を基本とします。

メーカーの仕上材から選ぶ場合

エリア指定色彩より、屋根色の色相・明度・彩度を
確認し、仕上材のサンプル帳から色彩範囲に合致し
た希望するものを選定します。
屋根の色彩は、1色を基本とします。

STEP-4

造作色の選定

塗装等による場合

エリア指定色彩より、造作色の色相・明度・彩度を
確認し、色見本帳などを参考にして色彩を選定します。
2色以上を組み合わせる場合も、それぞれの色彩が
色彩指針に合致しているよう選定します。

メーカーの仕上材から選ぶ場合

エリア指定色彩より、造作色の色相・明度・彩度を
確認し、仕上材のサンプル帳から色彩範囲に合致し
た希望するものを選定します。
2色以上を組み合わせる場合も、それぞれの色彩が
色彩指針に合致しているよう選定します。

STEP-5

アクセントカラー
の選定

塗装等による場合・メーカーの仕上材から選ぶ場合

アクセントカラーは、色相、明度、彩度ともに自由に選ぶことができますが、外壁の色彩と調和を図りつつ、
外壁の見付け面積の10%以内を目安とします。
ただし、できる限り少ない色相とし、全体が華美にならないよう努めます。

※色彩範囲内に合致した仕上材を選択できないやむを得ない特別な事情(メーカー仕上材の製造中止等)がある場合は、届出書
「設計又は施工方法」欄にその旨を記載の上、彩度→色相→明度の順で、範囲内に最も近い仕上材を選択する。

例

STEP-1

エリアの
確認

西エリア

STEP-2

外壁色の
選定

5Y8/1

STEP-3

屋根色の
選定

5GY2.5/2

STEP-4

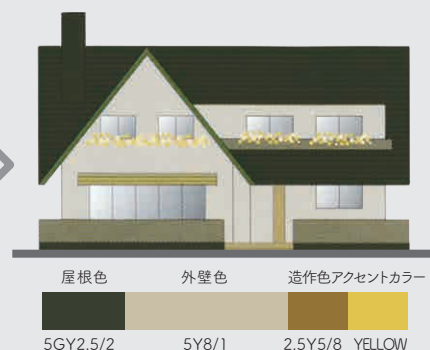
造作色の
選定

2.5Y5/8

STEP-5

アクセント
カラー
の選定

YELLOW



3-2 形態意匠等の基準

(1) 建物の新築、増築など(新築、増築、改築・移転)

① 配置

- ・建築物の壁面の位置を道路や隣地からセットバックすることにより、敷地内にゆとりのある空間を確保します。
- ・カーポート、物置等を既製品で新築等する場合にも同様に、敷地内のゆとりある空間に配慮します。
- ・山並みやランドマークとなる建物を遮らないよう配置することが必要です。
- ・道路から見える住宅までの前面の半公共的な空間が、コンクリートや砂利敷きだけで単調で無表情になります。視線を遮らない程度の生垣や塀等により半公共的空間の緑化に配慮します。
- ・商業地の建築物の正面は隣接建築物にできる限り揃えるなど、まちなみの連続性への配慮を行います。
- ・増築を行う場合は、敷地全体との調和、さらには周辺地域との調和にも配慮します。
- ・積雪時の堆雪への対応は、景観はもとより地域コミュニティに対しても大切な事項です。堆雪等の状況を考慮した建築物の配置を行います。

道路・隣地後退等、配置の従前 / 従後



- ・道路や隣地間に空間が保たれていない建物が配置
- ・高い塀の設置による圧迫感、閉鎖的
- ・山並み眺望を遮る配置

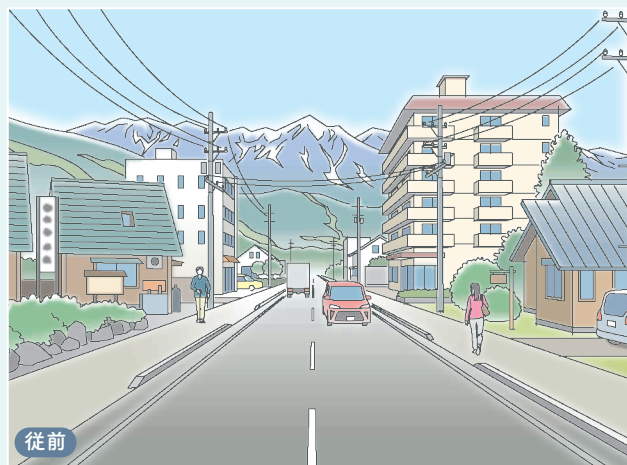


- ・道路・隣地より後退しゆとりを持たせた配置
- ・山並み眺望への配慮、圧迫感の無い沿道空間の創出

② 規模

- ・北アルプスや広大な田園風景、周辺集落など基調を大切に、周辺の基調に突出した印象を与えない規模や高さにします。

沿道まちなみの従前 / 従後



- ・まとまりのないまちなみ(規模の大きな建物が混在)



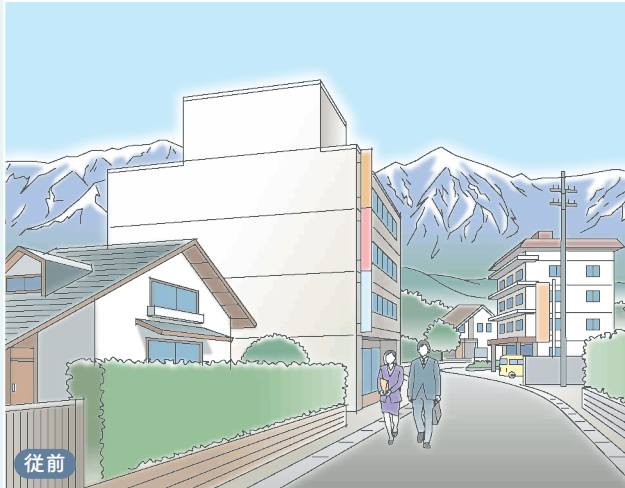
- ・周囲の風景と調和したまちなみ(規模に配慮)
- ・山並み眺望を遮らないよう配慮

③ 形態・意匠

- ・建物の壁面が大きくなると、単調さと圧迫感を与えます。壁面に表情をつけ圧迫感を和らげるよう凸凹をつけたり分節化を図ります。
- ・背景となる山並みのスカイラインや周囲自然環境にも調和する勾配屋根にし、冬季の屋根雪や周辺建物との調和を考慮した勾配とします。また、屋根には適当な軒を設けます。一般的には軒の出は60cm以上、けらば※の出は30cm以上あれば周囲と調和しやすくなります。
- ・白馬の原風景ともいえる東エリアは、豊富な歴史的資源があるなかに和風建物が、また、中・西エリアは近代的で洋風な建物を基調としています。敷地単位で景観を見るのではなく、周辺の自然や建物に馴染ませます。
- ・カーポート、物置等を既製品で新築等する場合には、形態・意匠等について周辺建物との調和に努めます。

※切妻屋根のうち、一般的に雨樋がついていない妻側の屋根が外壁から出っ張っている部分のこと。日当たりや雨漏り、外壁の劣化防止の役割があります。

形態・意匠の従前 / 従後



- ・圧迫感や威圧感のある単調な壁面



- ・分節化や凸凹形態による単調さと圧迫感の緩和
- ・稜線、山林、市街地の周辺と調和した勾配屋根

④ 付帯設備

- ・室外機など屋外設備が外部から直接目に入る位置に設置されると、心地の良いものではありません。道路から見えにくい位置への配置、建築物の外観意匠と調和した目隠しを行うなど目立たない工夫をしましょう。商店などはこれらの工夫がお客さまへのおもてなしにもつながります。
- ・屋外階段やベランダ、パイプ類などの付帯設備は、建築物との一体感により周辺景観に馴染むよう配慮します。

付帯設備の設置 従前 / 従後



- ・通りから目立つよう配置された室外機
- ・屋上に突出、歩行者から見える設備類・室外機

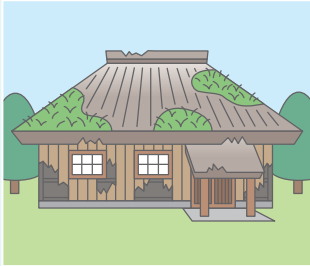


- ・配置の工夫、ルーバーによる目隠しされた室外機
- ・建物・屋根と一体化した設備類（太陽光パネルなど）

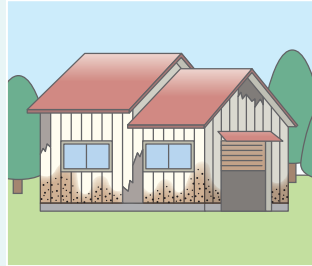
⑤ 材料

- ・劣化や汚れ、破損しやすい仕上げ材の使用は、景観を損ねるおそれがあります。耐久性に優れ汚れにくく変色しにくい素材を選びます。
- ・各エリア共通して自然素材の使用が望ましく、特に東エリアは歴史、文化、ふるさと感じる建物が多いことから、木・石等の自然素材の使用に努めます。ただし、年月が経つと色調の変化を伴って深みが出るものがある一方で、経年変化により劣化やはがれ等を起こしやすくなります。定期的なメンテナンスや修繕を行うなど維持に努めていきます。

自然素材の
経年劣化・はがれ



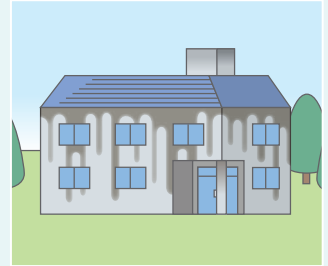
仕上げ材の
経年劣化・汚れ



反射光、金属素材の
素地仕上げの使用



屋根材、
外壁塗材



⑥ 敷地の緑化

- ・敷地の緑化は人々に潤いや安らぎを与え、景観上、重要な要素のひとつとなっており、さらに温暖化防止への効果も期待されています。出来る限り敷地内は緑化を行い、緑豊かな景観づくりを行います。
- ・天然林、人工林など樹木量の多い地域では、出来る限り今ある樹木や水辺を利用した建物の配置や規模、自然地形に逆らわない土地の活用を行い、自然環境の保全に努めるとともに周辺の基調に馴染ませます。
- ・市街地では、駐車場や建物の周辺、商店では入口正面への緑化により、目隠し効果に加え緑豊かな印象を創出します。

住宅の緑地配置



- ・開放的な庭を配置された建物

市街地や道路面、駐車場周辺の緑化



- ・緑化と目隠し効果

既存緑化の活用



- ・敷地内にある樹木を活用した配置

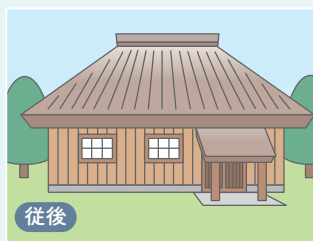
(2) 既存建物の外観変更（補修・修繕、模様替、屋根・外壁の塗装など）

既存建物の外観に関わる補修・修繕、外壁や屋根の材料や仕様を替える模様替、屋根や外壁の塗装による色彩変更など

- ・既存建物の外観に関わる補修・修繕の際には、耐久性に優れ汚れにくく変色しにくい素材選びを心掛けます。
- ・既存建物の模様替を行う際には、従来に培ってきた周辺地域との調和に配慮します。外壁や屋根に太陽光パネル設備を設置することも模様替に該当します。反射光のある素材を出来る限り使用しないなど、建物の新築と同様に、形態・意匠及び色彩に関して景観への配慮を行います。
- ・木・石・金属等の自然素材の使用の際には、年月が経つと色調の変化を伴って深みが出るものがある一方で、経年変化により劣化やはがれ等を起こしやすくなります。定期的なメンテナンスや修繕を行うなど維持に努めていきます。
- ・屋根や外壁に塗装を行う場合、地域ごとの色彩基準に基づいた色彩を選択します。

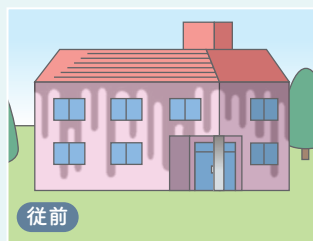


従前

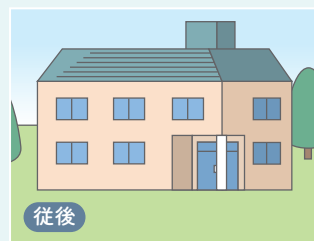


従後

- ・自然素材の経年劣化・はがれ
- ・定期的なメンテナンス・修繕
- ・仕上げ材の経年劣化・汚れ



従前



従後

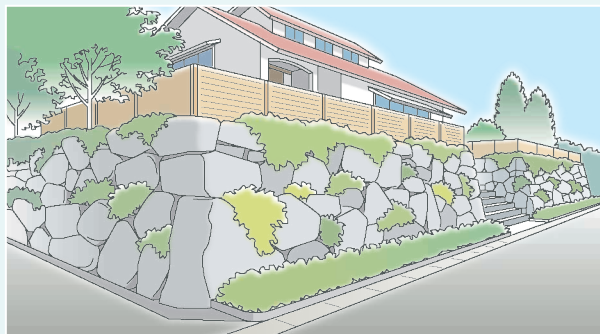
- ・反射光、金属素材の素地仕上げの使用
- ・屋根材、外壁塗材・パネル
- ・基準に適合した色で修繕・塗装

(3) 工作物の建設、外観の変更等

① 塀・柵・擁壁

- ・住宅などの敷地内へ設置する塀や柵は、まちなみに潤いの表情を与える要素のひとつとなる一方で、通りを歩く人に遮蔽感や圧迫感を与えることがないよう、素材や色、高さなどデザインにより工夫します。

戸建て住宅の生垣

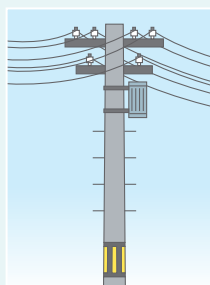


- ・擁壁を緑化目隠しによる通りからの見え方（圧迫感の軽減）

② 電柱

- ・電柱の設置の際には、背景や周囲の環境に溶け込ませ存在感を軽減することにより、周囲の景観に極力影響を与えないよう配慮します。

色彩基準



- ・ブロンズ色
(マンセル表示: 2.5Y3/2 又は同等色)

色彩



- ・田園地域など背景が開放的で比較的光るい箇所は無彩色
- ・山麓沿いは周辺樹木と同化したブロンズ色

設置場所



- ・南北方向の道路への設置は白馬連峰の眺望確保のため東側へ

(4) 屋外における物件の堆積又は貯蔵（堆積、貯蔵の方法及び遮へい）

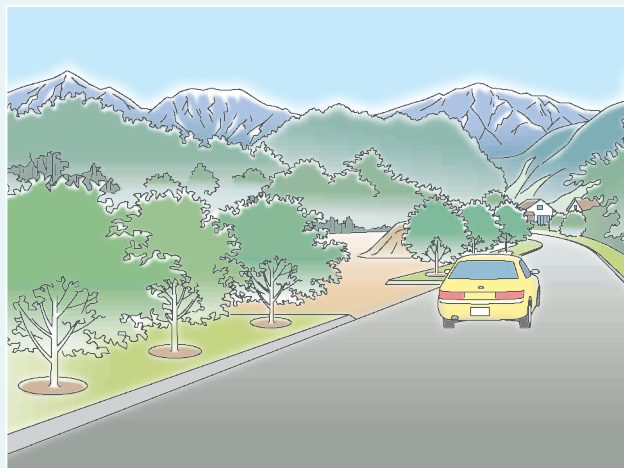
- ・屋外に土砂や資材、再生資源物などを保管する場合、威圧感やその物件が周囲の景観に支障をきたさないよう積み上げる高さを出来るだけ低くし、整然とさせます。
- ・道路から見えないように堆積の仕方や配置場所の工夫、柵や塀などの設置や緑化などにより目隠しします。

集積の場所 道路からの見え方を工夫



- ・堆積物が雑然とし景観を損なう→敷地境界から後退、堆積物を低くした例

目隠しを施した例

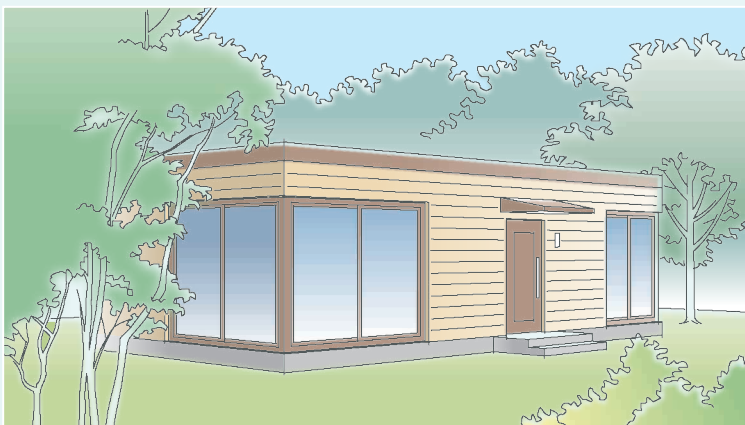


- ・道路からの遮へい、目隠しや緑化を施した好ましい例（見え方や開口部分などへ配慮）

(5) その他 白馬村景観条例の対象とならない行為

- ・屋外に設置する自動販売機の色やデザイン、設置場所は都市景観やまちなみを構成する要素のひとつとなっています。配置、色彩等については、周辺の景観との調和を図るため、一般社団法人全国清涼飲料会の自主基準の準用を依頼します。
- ・公共物である消火栓等の防災施設は、非常時に必要不可欠なものです。しかし、これらは一般的に道路わきに設置されており、景観に強く影響を及ぼします。これらを設置する際には、あくまで防災面での機能を第一に、可能な範囲で景観への影響を最小限とするため、設置位置等に配慮します。
- ・近年、生活様式の多様化やグランピング等の商業用としてグランピングテント、コンテナハウスやトレーラーハウスが設置される事例があります。一方、これらは一般的に工業製品であることが多く、形態・意匠、材料、色彩等は容易に変更することができません。しかし、これらが建物に準じる機能を持つことから、設置する位置等の配置に十分に配慮するとともに、可能な範囲で目隠し等を行い、景観への影響を軽減します。

コンテナハウス設置の例



- ・屋根や外壁は、出来る限り色彩基準に準じた色を選択
- ・消火栓に影響のない場所への配置や目隠しを施すなど見え方に配慮



もてなしのしつらえ

～白馬村色彩指針(カラーシステム)～

HAKUBA SCENERY COLOR

令和6年(2024年)3月発行

編集発行

白馬村 建設課

〒399-9393 長野県北安曇郡白馬村大字北城7025

電話：0261-72-5000

